

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話: 044-988-0004 (柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>
 第75号

世界遺産登録の富岡製糸場とはどんな所？

今年6月25日に群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、日本で14番目の世界文化遺産に登録されました。自然遺産も合わせると18番目になります。

◆なぜ明治初年、製糸工場が作られたのか◆

1858年に欧米5ヶ国と修交通商条約が締結されました。それ以降、日本は欧米諸国へ生糸(絹糸)輸出を盛んに行うようになりました。しかしその後、粗製乱造(質の悪い製品をたくさん製造すること)が問題となり輸出量が減少する結果を生み出していました。一方、欧米諸国では産業革命が進み、生糸生産は機械化され、安価で大量に生産することが出来るようになっていました。

貿易で欧米諸国に勝つためには、欧米の製糸機械と大工場、そして機械を使いこなす日本人技術者の養成が必要となったわけです。

そこで、フランスより製糸機械を購入し、明治5年(1872年)官営の製糸工場が建設され、ポール・ブリューナからフランス人が技術指導者として雇用されました。これらは、まさに日本近代化の為の一大国家プロジェクトであったのです。

◆なぜフランスの機械と技術者を導入したのか◆

フランスの製糸機械のほうが優れていたということもあります。加えて幕末、ヨーロッパの絹産地のイタリア・フランスで蚕の病気が流行し、蚕が絶滅状態になったことがありました。このとき、14代将軍徳川家茂がフランス皇帝ナポレオン3世に約3万枚の蚕紙(さんし=蚕の卵を産み付けている紙)を寄贈しました。この縁で、日仏の友好関係が深まったことが根底にあり、フランス人技術者の導入につながったのではないかと考えてなりません。

◆なぜ群馬県の富岡であったのか◆

群馬県は古くから養蚕の盛んな地域で、富岡は地形的にも2つの河川が作る扇状地になっており蚕の餌である桑の生産に適していました。また、水資源も豊かで、近くには燃料の石炭の産地も控えていました。さらに、外国人の指導による工場建設に地元住民の同意も比較的容易に得ることが出来たようです。

◆製糸工場の工女募集に対しある噂が流れていた◆

政府は明治初年、入間・群馬・栃木・埼玉・長野の5県に工女(こうじょ=女工と同じ)を400名募集しましたが、50~60名しか応募しなかったといわれています。そこで政府は明治5年、さらに北海道をはじめ10県を追加募集をしましたが効果がありませんでした。この裏には、技術指導者である欧米人に対する、ある噂が流れていたのです。それは「毛唐人(欧米人のこと)は日本人の生血をしぼり、毎日赤い血を飲んでいる」というもので、そのため工女募集に応ずる女性が極めて少なかったといわれています。この「赤い血」というのは、彼らが毎日飲んでいる赤ワインのことだったのです。政府はやがて、旧士族(江戸時代、武士であった人々)の娘を雇い入れ、更に富岡製糸場の管理職を説得し、彼らの娘たちが工女として働くようにお願いし、ようやく予定の人数を集めることが出来ました。

◆工女の待遇はどうだったのか◆

「工女哀史」などを読みますと、明治時代から昭和初期にかけての紡績(綿糸を作る)工場や製糸(絹糸を作る)工場での労働条件は過酷であったことがわかります。それでは、富岡製糸場の様子はどうだったのでしょうか。まず勤務時間は7時~16時30分で、実働7時間45分と、日の出から日の入りの時間帯を基準にしていたようです。休日は日曜日50日、年末休暇(12/29~1/7)、祝祭日6日、夏休み10日の年間76日でした。給料(月給)は一等工女25円、二等工女18円、三等工女12円、等外9円でした。当時の1円は現在の約2万円ですのでかなりの高額であったことがわかります。いずれの労働条件をとってもかなりの厚遇であったようです。

◆富岡製糸場に対する国際的評価の視点◆

日本では古来から養蚕が行われ、近世になると「養蚕秘録」をはじめ多くの技術的指導書が刊行されました。このような伝統のある優れた日本の養蚕技術に欧米の近代機械技術が導入され、さらに良質の生糸が生産されることになりました。

富岡製糸場は、アジアの伝統技能と欧米の産業革命が融合して出来上がった、近代産業のあるべき姿を現しているという評価の視点があったものと思われまます。
 (文:板倉)



錦絵に描かれた工場全景



工場内部の様子

シリーズ

「麻生の歴史を探る」第45話

麻生の古道(6) ～早の道～

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

岡上には鎌倉街道“早の道”と呼ぶ道が通っていたといわれます。早の道とは近道という意味で、この道の場合は鎌倉街道“中の道”の青砥(現横浜市緑区中山)から、青葉区の奈良、岡上、そして町田市の広袴、真光寺、黒川を経て現多摩市の蓮光寺、関戸に通じる“上の道”の貝取を結ぶ中間道で、その道筋には様々な伝承、逸話が残されています。

岡上の東光院は平安時代創建の古刹ですが、その山門と本堂は寺院としては珍しい東向きです。これには寺の東を通る鎌倉道に向け再建したので東向(光)院としたとの逸話があり、今でも古道の面影が残るところがあります。古老の話ではこのあたりを“へイミチバ”と呼んだそうで、それは“ハヤノミチ”の詰まった言葉といわれています。

この道は鶴見川を渡り(現本村橋)、能ヶ谷で後の津久井道を横断しますが、ここは鎌倉時代に在地豪族の神蔵氏が威を張ったところで、そこに片平の尾根に向かう坂道があり、それは片平から栗木、黒川(現野外活動センター)へと続く尾根道になり、一方、幹線と思われる道は、広袴、真光寺、そして黒川へ向かっています。

この広袴を含む鶴川団地には、頼朝の異母兄悪源田義平、そして木曾義仲の父源義賢を巡る伝承(大蔵館)があり、その旧跡は東西およそ9町51間(大蔵郷土史)とあります(異説もあり)ので、西に隣接する小野路(上の道)と一連のものであったかもしれません。また、この広袴からは東の栗木を越える道(亀井坂・京街坂)があり、それは平尾、金程方面に向かっています(前稿御座松道)。

真光寺から黒川への道は村境の尾根(標高120～130m程度)を越え(現鶴川街道)黒川に入って道は二つに分れます。



天王森公園八坂神社

毘沙門天があり、そこにはいく筋かの里道が山々の稜線を縫って市内最高峰の丸山(149m)に集まってきます。その先は稲城市坂浜境の尾根道に達しており、そしてこの尾根道は多摩丘陵の尾根を行き最高峰の稲城の天王森公園(標高160m)に至ります。ここを蓮光寺とも呼びますが、この天王森公園(尾根道)からは関八州、秩父、相模が一望され、府中、国分寺や分倍河原、小沢原など、かつての古戦場が眼下にあり、さらに尾根を下ると鎌倉街道“上の道”で、この尾根には人馬が満ちたであろうことが想像されます。

昭和61年、黒川はるひ野開発時の遺跡調査は思わぬ発見をしました。それは、奈良、平安時代の住居跡40軒あまりと寺院と思しき遺跡が発掘されたことで、そのことはこの頃この地に道があったということを意味します。武蔵野と相模野を眺望できるこの尾根は、万葉集に詠まれた防人の歌“多摩の横山”ではなかったらうかと想像されます。現在この尾根道が整備され、“よこやまの道”と名付けられて保存されています。

参考資料:「川崎市史」「わが町大蔵」「くろかわ」「ふるさとは語る」



野外活動センター脇の早の道跡

一つは石神谷戸(今も古道の面影あり)、橋場、丸山を経て蓮光寺へ、もう一つは現鶴川街道と思しき道筋で稲城坂浜から矢野口に至っています。この真光寺の尾根では、前述の片平、栗木、黒川(野外活動センター)からの尾根道が小野路の“上の道”に接しています。また、この真光寺村は古刹真光寺(寺名が村名となっているのは近郊では王禅寺、国分寺、弘明寺のみ)の大寺があったところで、さらに近く飯守神社は、黒川の汁守神社とともに府中大国魂神社の膳部神と伝承された「鎮座の年代を知らず(風土記)」の古社で、これ等の寺社はこの街道の目的地の一つだったのでしょう。

黒川は黒河とも書きますが、三沢川の源流で、その中心が橋場といわれ真言宗の古刹金剛寺(廃寺)



よこやまの道

シリーズ 黒船来航

開国秘話 (11)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆日米和親条約の締結◆

条約文の交換は、3月31日の金曜日(旧暦では3月3日でしたから、雛祭りの日です)に行なわれました。事前に双方が署名しておいた条約正文を交換する方式でした。それが滞りなく終わろうとする寸前、応接掛筆頭の林大学頭が口を開きました。

「我々は外国語で書かれた、いかなる文書にも署名することはできない。」ペリーは、見事に虚を突かれ、反論する間もないうちに儀式は進み、全てが終わりました。従って、応接掛の署名がある正文は、日本語のみなのです。中国語(漢文)、オランダ語、英語の3種は翻訳版であるとの考えで、応接掛の署名はなく、幕府側通訳の署名のみで済ませたのです。

アメリカ側も、正文は英語版のみと考えて、ペリー自身が署名していました。この結果、双方の責任者の署名が揃った正文は、1通も存在しなかったのです。ちなみに、この時の4ヶ国語の条約文は、アメリカ国立公文書館に所蔵されています。

翌日4月1日、ペリーは応接掛に書簡を届けました。応接掛はこれを黙殺し、翌日2日付けで、老中に上申書を提出しています。その中で、署名問題について、「通常は連判であるが、今回は双方が別紙に署名しただけで、連判は断った。調印の翌日、ペリーから書簡で、連判がないのは不都合だと言ってきたけれど、そのまま押し通したので、わが国の国威は立ったと考える」と記しています。

応接掛は、調印方式について、明確な方針を持っていたのです。条約正文を何語とするか、署名をどうするか、重要な交渉をしなかったのですから、この対日米和親条約の署名 日本語正文に林大学頭ら応接係の応は、まさに応接掛の交渉力によるものでした。

しかし、無署名の条約問題は、長く放置することはできません。やがて紛争に発展するかも知れないからです。それゆえ、この問題には第2幕が存在します。応接掛は事後処理も考えていたのです。

ペリー一行は、開港場に決まった函館と下田を实地に検分する必要がありました。また検分後に、細部の取り決めについて、追加する条文の交渉が残されていました。その交渉は新たに開港場に決まった下田で行われ、6月に下田で追加条約が結ばれます。全13条からなる下田追加条約です。応接掛の対応はそこで示めされました。



日米和親条約の署名 日本語正文に林大学頭ら応接係の署名、英語正文にペリーの署名が見える



日米和親条約の交渉中にペリーが何度も上陸して疲れを癒した小柴沖の夏島。後には伊藤博文が別荘を構え、しばしば滞在しています。

写真は『ペリー艦隊日本遠征記』より

ています。そこで福沢は、外国商館の看板が読めないことにショックを受けます。自分が学んだオランダ語は、これからの時代の主要言語ではない。これからは英語の時代だと、彼は悟ったのです。

こうして福沢を初め、外務掛としての訓練を科された人々は、いずれも下田追加条約などのオランダ語訳を媒介にして、英語を勉強したのです。

下田追加条約では、今後の日米間の外交交渉の決まりごととして、日本語と英語を正文とし、オランダ語を訳文としてつけること、中国語(=漢文)は原則として使用しないことが決められました。この追加条約の正文に双方の全権、林大学頭とペリーが連署したのです。2人の連署によって、初めて日米和親条約は完結しました。徳川幕府は、オランダとは長い付き合いがあります。ですから、オランダ語の通詞は、代々世襲として養成してきました。そのためオランダ語の人材に困ることはなかったのです。しかし、英語の分かる人材は皆無に等しかったのです。英語に限りませんが新しい言語の学習には時間がかかります。下田追加条約にある、オランダ語の訳文をつけるという条項は、幕府の提案で入ったものですが、この条項が英語の学習に威力を発揮しました。訳文であるオランダ語を頼りに、英語を学ぶ道がそこにあったからです。

例を挙げましょう。5年後の1859年7月1日に横浜は開港しました。福沢諭吉は、開港直後にこの横浜を訪ね

(続)

平成 26 年度 柿生郷土史料館友の会 法人会員紹介 51法人(順不同・敬称略)

柿生郷土史料館は地域の皆様のご支援とご協力で運営しております。
本年度もよろしくお願い申し上げます。
本年度の柿生郷土史料館「友の会」の法人会員の皆様をご紹介します。(平成 26 年 6 月 1 日現在)

- ★月読神社★琴平神社★王禅寺★浄慶寺
- ★麻生総合病院★たま日吉台病院
- ★アルナ園★虹の里養護施設★柿の実幼稚園★柿生保育園★和光大学★桐光学園
- ★川崎信用金庫柿生支店★JAセレサ川崎柿生支店
- ★神奈川トヨタ自動車★ノジマNEW鶴川店★フラワーショップまきば
- ★三共エステート★柿生恒産★青戸建材店★カジノヤ★孝友商事★観財★朝日ホーム
- ★山義産業★奈良工業★麻生自動車★志田電子製作所★リック設計企画★広東商事
- ★粕谷住宅資材★スズユウ商事★栄運輸★プライマリー★北島工務店★荒川電気工事
- ★ティーエムコーポレーション★サイトー農芸★誠和産業★栄和★菊川園★ホシノ商会
- ★杉本電気★長瀬敏之土地家屋調査士事務所
- ★フィッシュ・オン王禅寺★松屋★とん鈴★レストランベル★カラオケゆう★小料理わかば
- ★美容院ルシル

会員は、年間を通して募集しております。会員になっていただける方は下記にご連絡いただくか、お近くの支援委員にお申し出ください。

連絡先 板倉:090-4431-9778

年会費 一般会員:2,000円 賛助会員:3,000円 法人会員 10,000円

柿 生 郷 土 史 料 館 開 館 日 の ご 案 内

◎開館日:偶数月は毎土曜日、奇数月は毎日曜日

8月 2・9・16・23日(毎土曜日)

9月 7・14・21・28日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

柿 生 郷 土 史 料 館 8 月 以 降 の 催 物 ご 案 内 (入場無料)

第7回 実物のミニ歴史資料展

明治6年 太陽暦に替わった日

展示品:「明治5年 太陰暦」「明治6年 太陽暦」
「江戸期 伊勢暦」「改暦辨(福沢諭吉著)」
他

期間:4月26日(土)～9月14日(日)
(開館日:8月⇒8/31除く土曜日;9月⇒日曜日)

内容:明治5年12月3日を明治6年1月1日とした太陽暦への改暦の意味を考えます。



明治5年の太陰暦(左)と同6年の太陽暦案内書「改暦辨」

第48回 カルチャーセミナー

アフリカ スーダン共和国の今日を知る

- ◆今年7月に帰国する若林氏の最新のスーダン情報を聞く
- ◆混迷のアフリカ諸国の実像

講師:若林恵子氏(スーダンの平和を守る会現地責任者)
日時:9月21日(日) 13時30分～15時30分
会場:柿生郷土史料館特別展示室
内容:世界情勢の中のアフリカ諸国の課題を考える

